

京都府農林水産技術センター生物資源研究センター

令和3年度成績報告会 短報発表要旨

(1) 生産性や品質を向上させた俵型の大納言小豆新品種の育成

応用研究部 主任研究員 伊藤寿美子

当センターでは、俵型でインゲンマメモザイクウイルス（BCMV）抵抗性を持ち、機械収穫に適した大納言小豆の新品種育成に取り組んでいる。これまでに、府内で収集した遺伝資源を交配して、ウイルス病抵抗性を有し大粒俵型の有望系統を選抜している。今回、これら系統の食味評価と機械化栽培体系による現地栽培試験を行ったので、その結果を報告する。

(2) 収穫可能な期間が長い8月獲り丹波黒大豆系エダマメの育成

応用研究部 技師 内藤一平

京都府特産の黒大豆エダマメ「京 夏ずきん」は莢の黄化が早いため、収穫可能な期間が短い。このことが、近年栽培面積が頭打ちしている一因となっている。この問題に対して当センターは、収穫可能な期間が長く良食味である新しいエダマメ品種の育成に取り組んできた。本報告では、昨年度選抜した新品種候補系統の栽培特性や食味特性等について概要を報告する。

(3) 京都府の黒ダイズにおける黒根腐病の発生実態

応用研究部 主任研究員 徳丸晋虫

ダイズ黒根腐病は、黒ダイズに発生する土壌伝染性の立枯性病害である。発病株では生育が抑制され、発病が激しい場合には枯死する。本病の京都府における発生実態生態については、正確に把握できていない。そこで、本病の防除対策を構築するために、京都府内の黒ダイズ産地 22 箇所において本病の発生状況について調べた。

(4) 京都府内のキュウリ栽培におけるアブラムシ媒介性4種ウイルスの発生実態

応用研究部 技師 門馬悠介

キュウリ栽培では、アブラムシ媒介性の4種ウイルス（PRSV、ZYMV、WMV および CMV）による萎凋症状が問題となるが、京都府内におけるこれらウイルスの発生状況については不明な点が多い。そこで、府内の主要なキュウリ産地のほ場計 61 地点を対象に、発生調査を行った。その結果、4種ウイルスはいずれも 11~13 地点で発生が確認され、産地によって発生するウイルス種および発生程度が異なることが明らかになった。